あらすじ

文／石淵文恵

1月3日（水）

翁

三丁の小鼓と大鼓が織成すリズムの高揚。千歳は颯爽と舞い、白い翁は厳かに天下泰平と国土安穏の祈りを捧げ、黒い翁は大地を踏み跳躍して五穀豊穣を願う。——

祭祀そのものと言われ、他の演目とは一線を画す様式を持つ。「能にして能にあらず」とも言われる特別な演目。後見や地謡が武家の正装たる長袴の素袍に侍烏帽子を付けた姿で居並ぶのも《翁》だけなのだ。令和六年の幕開けを飾る翁は観世宗家嗣子・三郎太、千歳は分家嗣子・淳夫という次世代を牽引すべき二人。十四世茂山千五郎の三番三、その嗣子・竜正の面箱持が花を添える。

狂言　末広かり

果報者（大富豪）は、祝宴の引き出物に末広がりを買ってくるよう太郎冠者に命じ、好みも詳しく伝える。ところが、太郎冠者は、末広がりがどんな物で、どこで売っているのかも聞かずに都へ出て来てしまった。しかたなく大声で末広がりを買おうと呼ばわっていると、「すっぱ」（ペテン師）にだまされて傘を買わされる。——

令和五年に新しく人間国宝に認定された二世茂山七五三の果報者で、おおらかに目出度く朗らかに笑い初め。

能　高砂　八段之舞　流之伝　八頭之伝　大極之伝

九州阿蘇宮の神主が都へ上る道すがら、播磨国の高砂で、松の木蔭を掃き清めている老夫婦に出会う。二人は夫婦でありながら、ここ高砂と摂津国の住吉に別れて暮らしていると言う。老夫婦は、住吉で待っていると神主に告げると小舟に乗って沖へ消えた。神主が後を追って住吉に行くと、夫婦和合の象徴である相生の神松、すなわち住吉明神が現れて、長寿と繁栄を祝福して舞う。——

緩急の妙が抜群に面白い「八段之舞」のほか、極めて珍しい小書（特殊演出）を並べて、二十六世宗家観世清和の気高く雄々しい男神の颯々たる舞が堪能できることだろう。

2月12日（月・祝）

能　景清　松門之出

悪七兵衛景清は平家方きっての猛将であったが、日向国宮崎に流され、盲目となった今は、平家節を語って露命を繋いでいた。ある日、幼い頃に別れたきりの娘・人丸が遥々尋ねて来る。他人を装う胸の内、戦闘に明け暮れて肉親の情も忘れ、このまま命果てていくはずだった男に、どんな想いが去来したのだろうか。——

役者として積み重ねてきた時間の充実がにじみ出てくる能《景清》。梅若桜雪（日本芸術院会員・人間国宝）が、宿敵であった源頼朝の命を狙い続けた孤独なスナイパー、ハードボイルドな男の悲哀をいかに演ずるか楽しみだ。

狂言　二人袴

初めて聟入り先の舅に挨拶する大切な日。兄は、聟入りする弟に懇願されて、こっそり門前までついて来る。ところが、舅の家の使用人・太郎冠者に目ざとく見つけられ、舅から是非にと家に招き入れられてしまう。困ったことに、礼装用の長袴は一腰しかないのだ。さあ、どうする!?

常は聟と父親の設定だが、演ずるのが実際の兄弟ゆえに、聟と兄という設定になる。舅は父の二世彌五郎、太郎冠者の忠亮は従弟という息の合った舞台を楽しみたい。

能　木曽　願書

木曽義仲は平家打倒の兵を挙げるが、平家軍十万余騎に越前の城を攻め落とされたため、五万余騎という劣勢でいかに勝利するか次なる作戦を練っていた。義仲は、倶利伽羅峠から夜襲をかけるべく自らは精鋭一万余騎を従えて埴生に陣を構える。気づけば、そこは源氏の氏神である八幡社の境内だった。この吉兆に、義仲は書記の大夫房覚明に祈願文を書かせて奉納し、門出の祝宴を開く。——

小書（異式演出）「願書」は、《安宅》「勧進帳」、《正尊》「起請文」と共に「三読物（さんよみもの）」とされる重い習い物。齊藤信隆の謡の力量が発揮されるだろう。

1月4日（木）

翁　弓矢立合　三人之舞

大槻能楽堂名物の二日間にわたる《翁》。令和六年の二日目は、小書（異式演出）が二つ並ぶ。「弓矢立合（ゆみやたちあい）」は、直面（ひためん＝面をかけない）の翁が三人出て、相舞（あいまい＝一緒に舞うこと）をする。観世流二十六世宗家・観世清和、分家・九世観世銕之丞、そして大槻文藏（文化功労者・人間国宝）という、この上ない豪華。千歳は大槻文藏の養嗣子・裕一だ。加えて、本邦初公開となる「三人之舞」は三番叟を三人で舞う。しかも、野村万作（日本芸術院会員・人間国宝）、萬斎、裕基という、これまたこの上なく目出度い親子三代の三番叟だ。

狂言　三本柱

金蔵を新築することになった果報者（大富豪）は、召し使う太郎冠者・次郎冠者・三郎冠者を呼び出して、柱にするために伐っておいた三本の木を山から取って来るように命じる。ただし、運び方に条件があり、三本の柱を一人二本ずつ持って運ぶように言い付ける。さて、三人はどんな方法で言い付けどおりに柱を運ぶのか。——

野村萬斎を中心として、野村太一郎はじめ一門の三人が、うきやかな囃子に乗って目出度く楽しく繁栄を寿ぐ。

能　望月　古式

小沢刑部友房は、信濃国の住人・安田荘司友治の家臣であったが、その主君を望月秋長に殺され、今は近江国守山宿で旅籠甲屋を営んでいた。事件から十三年経ったある日、偶然にも主君の妻と遺児・花若が宿を借り、三人は現在の境涯を嘆きながらも再会を喜び合う。そんな折、京都に拘留されていた望月秋長が、無罪となって本領を安堵され、信濃国へ帰る途中、この甲屋に泊まり合わせる。——

九世観世銕之丞のダイナミックでありながら情感を湛えた「獅子」の舞。ツレを嗣子の淳夫、子方はワキを勤める福王知登の子息・登一郎が勤めるのも嬉しい舞台である。

3月23日（土）

能　草子洗小町　替装束

宮中で歌合（うたあわせ）が行われる前夜、大伴黒主は、対戦相手の小野小町の邸に忍び込んで盗み聞きし、その歌を『萬葉集』の草子に書き写す。いよいよ帝ご臨席のもと、紀貫之・壬生忠岑・河内躬恒ら錚々たる歌人や女官たちが一堂に会して歌合が始まった。帝が小町の歌を絶賛すると、すかさず黒主が、それは古歌だと訴え出る。——

黒主は、令和五年に最年少で人間国宝に認定されたワキ方下掛宝生流十三世宗家・宝生欣哉だ。赤松禎友の小野小町が、たおやかに艶やかに宮廷絵巻を繰り広げる。小書（特殊演出）は、より絢爛たる趣になる「替装束」。

狂言　素袍落

急に伊勢参りを思い立った主人は、かねてより同行の約束をしていた伯父のところへ太郎冠者を形ばかりの挨拶に遣るが、餞別を貰ってしまうと土産を買わねばならないので、太郎冠者が供をすることは口止めする。——

当時の人々にとって一大イベントだった伊勢参りの昂揚と華やいだ気分、奉公人の鬱憤が見え隠れする太郎冠者の酔いっぷり。久々に東京から来演する四世山本東次郎（日本芸術院会員・人間国宝）の至芸を味わいたい。

半能　石橋　師資十二段之式

中国の清涼山に架かる石橋を渡れば、そこは文殊菩薩の浄土だが、身の毛もよだつほど凄まじい深さの滝壺から昇る霧が立ち込め、幅一尺にも足らぬ橋は苔むしていて水を含み、とても常人の渡れる橋ではなかった。——

数千丈の谷に滴り落ちる露と静謐を表現する囃子から一転、文殊菩薩の霊獣獅子が牡丹の花に戯れる豪壮華麗な「獅子」の舞となる。「師資十二段之式」は、《石橋》の小書（特殊演出）の中でも「獅子」の舞が最長になる。大槻文藏（文化功労者・人間国宝）から養嗣子・裕一へと伝承される芸と心。90周年にふさわしいフィナーレだ。

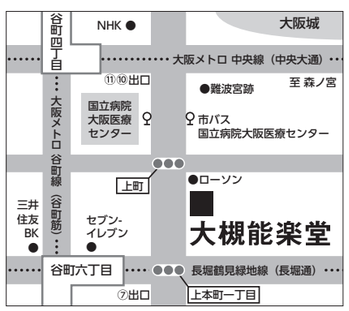
会場　大槻能楽堂

大阪市中央区上町A番7号

※駐車場・駐輪場はございません。
※やむを得ぬ事情により、曲目・出演者・日程・終演予定時刻等の変更が生じる場合がございます。あらかじめご了承くださいますよう、お願い申し上げます。
※本公演における写真撮影及び録音・録画は固くお断りいたします。
※上演中は時計等のアラームや携帯電話の電源をお切りください。
※未就学児のご入場はご遠慮ください。

●大阪メトロ谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車
⑩号出口を出て南へ約300m。
（⑪号出口にエレベーター有）
または谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車
⑦号出口を出て北へ約350m。
（⑦号出口にエレベーター有）

●市バス「国立病院大阪医療センター」下車南へすぐ。
※「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き、
「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き。



大槻能楽堂

〒540-0005 大阪市中央区上町A-7
TEL.06-6761-8055
【公式サイト】noh-kyogen.com

主催：公益財団法人大槻能楽堂

公演パンフレット 季刊発行予定（詞章・あらすじ等を掲載）

令和五年度
大槻能楽堂
自主公演能

大槻能楽堂 創立九十年記念公演

この度創立九十年の節目の年を迎えるにあたり、記念公演として全国的にも類を見ない贅沢な番組にて、
能楽のますますの発展・継承を祈念し大勢のお客様に御来堂頂き御高覧賜ります事を願いまして開催致します。

全公演　午後2時開演　午後1時30分開場

チケット料金

1月3日・1月4日 公演		
席　種	一般（前売）	一般（当日）
S席	15,000円	16,000円
A席	12,000円	13,000円
B席	10,000円	11,000円
学生（B席）	8,000円	9,000円
U-25 25歳以下（B席）	席数限定 4,000円	席数限定 5,000円

※友の会：割引特典あり

4公演 セット券

S席　49,500円
A席　41,000円
B席　32,500円

発売日　※販売は12/27まで
先行 10/3　一般 10/13

2月12日・3月23日 公演		
席　種	一般（前売）	一般（当日）
S席	11,000円	12,000円
A席	9,900円	10,900円
B席	7,700円	8,700円
学生（B席）	5,500円	6,500円
U-25 25歳以下（B席）	席数限定 3,000円	席数限定 4,000円

※友の会：割引特典あり

チケットご予約・ご購入

●大槻能楽堂ホームページ
（発売日10:00～）
https://noh-kyogen.com/ticket/

●大槻能楽堂 事務局
（11:00～16:00 不定休）
TEL 06-6761-8055

令和6年 1月3日（水）

チケット発売 先行 10/23　一般 11/2

翁

翁　観世三郎太
三番三　茂山千五郎
千歳　観世　淳夫
面箱　茂山　竜正

笛　杉　市和
小鼓　頭取　大倉源次郎
脇鼓　清水　晧祐
脇鼓　大倉伶士郎
大鼓　山本　哲也

後見　観世銕之丞
後見　赤松　禎友

地謡　大槻　文藏
地謡　多久島利之
地謡　梅若　猶義
地謡　山本　章弘
地謡　山本　正人
地謡　大西　礼久
地謡　齊藤　信輔
地謡　水田　雄晤

狂言後見　茂山　逸平
狂言後見　井口　竜也

―― 休　憩 ――

狂言 末広かり

果報者　茂山七五三
太郎冠者　茂山　茂
すっぱ　網谷　正美

笛　杉　信太朗
小鼓　清水　晧祐
大鼓　山本　哲也
太鼓　小寺真佐人

狂言後見　茂山　虎真

仕舞 羽衣　大槻　文藏

仕舞 笠之段　観世銕之丞

地謡　多久島利之
地謡　齊藤　信隆
地謡　赤松　禎友
地謡　武富　康之

―― 休　憩 ――

能 高砂

八段之舞
流之伝
八頭之伝
大極之伝

尉　観世　清和
住吉明神
姥　坂口　貴信
阿蘇宮神主友成　福王茂十郎
従者　喜多　雅人
従者　中村　宜成
高砂ノ浦人　茂山　逸平

笛　杉　信太朗
小鼓　飯田　清一
大鼓　亀井　広忠
太鼓　小寺真佐人

後見　上野　朝義
後見　林　宗一郎

地謡　藤井　完治
地謡　上田　拓司
地謡　上野　雄三
地謡　山本　博通
地謡　浦田　保親
地謡　寺澤　幸祐
地謡　武富　康之
地謡　大槻　裕一

（終演予定時刻18時30分頃）

令和6年 1月4日（木）

チケット発売 先行 10/24　一般 11/6

翁 弓矢立合 三人之舞

翁　観世　清和
翁　観世銕之丞
翁　大槻　文藏
三番叟　野村　万作
三番叟　野村　萬斎
三番叟　野村　裕基
千歳　大槻　裕一
面箱　野村太一郎

笛　竹市　学
小鼓　頭取　成田　達志
小鼓　胴脇　古田　知英
小鼓　手先　成田　奏
大鼓　亀井　広忠

後見　観世三郎太
後見　坂口　貴信

地謡　上野　朝義
地謡　上田　貴弘
地謡　齊藤　信隆
地謡　上野　雄三
地謡　浦田　保親
地謡　井戸　良祐
地謡　林本　大
地謡　今村　哲朗

狂言後見　深田　博治
狂言後見　中村　修一

―― 休　憩 ――

狂言 三本柱

果報者　野村　萬斎
太郎冠者　野村太一郎
次郎冠者　中村　修一
三郎冠者　内藤　連

笛　竹市　学
小鼓　成田　奏
大鼓　原岡　一之
太鼓　中田　弘美

後見　深田　博治
後見　飯田　豪

―― 休　憩 ――

能 望月 古式

小澤刑部友房　観世銕之丞
安田庄司友治ノ妻　観世　淳夫
花若　福王登一郎
望月秋長　福王　知登
下人　野村　裕基

笛　斉藤　敦
小鼓　久田舜一郎
大鼓　守家　由訓
太鼓　中田　弘美

後見　赤松　禎友
後見　谷本　健吾

地謡　浅井　文義
地謡　多久島利之
地謡　上田　拓司
地謡　山本　博通
地謡　山本　正人
地謡　寺澤　幸祐
地謡　武富　康之
地謡　齊藤　信輔

（終演予定時刻17時45分頃）

令和6年 2月12日（月・祝）

チケット発売 先行 12/1　一般 12/12

能 景清 松門之出

悪七兵衛景清　梅若　桜雪
人丸（景清娘）　梅若　猶義
人丸ノ従者　川口　晃平
里人　福王茂十郎

笛　杉　市和
小鼓　幸　正佳
大鼓　山本　哲也

後見　赤松　禎友
後見　武富　康之

地謡　片山九郎右衛門
地謡　山崎　正道
地謡　浦田　保親
地謡　梅若　基徳
地謡　寺澤　幸祐
地謡　味方　團
地謡　大槻　裕一
地謡　山田　薫

―― 休　憩 ――

狂言 二人袴

聟　善竹　隆平
兄　善竹　隆司
舅　善竹彌五郎
太郎冠者　善竹　忠亮

狂言後見　小西　玲央

一調 難波　大槻　文藏　三島元太郎

―― 休　憩 ――

能 木曽 願書

覚明　齊藤　信隆
義仲　上野　雄三
池田次郎　井戸　良祐
木曽郎等　齊藤　信輔
木曽郎等　上野　雄介
木曽郎等　今村　哲朗

笛　貞光　智宣
小鼓　清水　晧祐
大鼓　谷口　正壽

後見　大槻　文藏
後見　武富　康之
後見　大槻　裕一

地謡　赤松　禎友
地謡　山本　博通
地謡　浦田　保親
地謡　生一　知哉
地謡　山本　正人
地謡　長山　耕三
地謡　水田　雄晤
地謡　林本　大

（終演予定時刻17時15分頃）

令和6年 3月23日（土）

チケット発売 先行 1/12　一般 1/23

能 草子洗小町 替装束

小野小町　赤松　禎友
紀貫之　浦田　保親
壬生忠岑　山口剛一郎
官女　久保誠一郎
河内躬恒　山田　薫
官女　林本　大
王　武富　友香
大伴黒主　宝生　欣哉
黒主ノ下人　山本　則秀

笛　杉　信太朗
小鼓　吉阪　一郎
大鼓　守家　由訓

後見　上野　雄三
後見　武富　康之
後見　笠田　祐樹

地謡　浅井　文義
地謡　上田　拓司
地謡　山本　博通
地謡　吉井　基晴
地謡　寺澤　幸祐
地謡　井戸　良祐
地謡　齊藤　信輔
地謡　上野　雄介

―― 休　憩 ――

狂言 素袍落

太郎冠者　山本東次郎
主　山本凜太郎
伯父　山本　則重

狂言後見　若松　隆

半能 石橋 師資十二段之式

白獅子　大槻　文藏
赤獅子　大槻　裕一
寂昭法師　福王　知登

笛　松田　弘之
小鼓　成田　奏
大鼓　河村　大
太鼓　前川　光範

後見　赤松　禎友
後見　武富　康之

地謡　齊藤　信隆
地謡　上田　拓司
地謡　上野　雄三
地謡　山本　正人
地謡　寺澤　幸祐
地謡　水田　雄晤
地謡　今村　哲朗
地謡　笠田　祐樹

台後見　齊藤　信輔
台後見　上野　雄介
台後見　山田　薫
台後見　稲本　幹汰

（終演予定時刻16時50分頃）

「翁」開演から翁渡りが終わるまで客席への出入りは出来ませんので、お時間に余裕をもっておこしくださいませ。開演5分前には着席のご協力をお願い致します。